

# 神河町立寺前小学校 令和7年度 学校経営方針

## 1 教育目標

### (1) 学校教育目標

未来を生きぬく やさしく かしこく たくましい 児童の育成

### (2) めざす児童像

- 思いやりのある子 (自分も人も大切にする子)
- しっかりと学ぶ子 (生きぬく知恵を持った子)
- 体をきたえぬく子 (粘り強くやりぬく子)

### (3) めざす学校像

- 地域とともに歩む学校
- 活気ある学校
- 変革し続ける学校

### (4) めざす教師像

- 協働する教師
- 子どもに寄り添う教師
- 挑戦し続けるプロの教師

## 2 令和7年度の重点目標

### (1) 支えあう「豊かな心」の育成

#### ◇道徳教育の推進

他者や自己との「対話」により生き方についての考えを深める道徳教育を推進する。家庭や地域と連携し日常生活にいかす指導を行う。

#### ◇人権教育の推進

発達段階に応じて、多様な価値観や今日的な人権課題の理解を深め、主体的に解決しようとする行動力や、自らの生き方を考える力を育成する。

#### ◇全教師での指導

全教師が同じ視点で同じ指導をする。また関係機関を含め「チーム寺前」として、連携して指導する。

子どもの困り感やSOSを見逃さない。すべての児童を対象に、発達支持的生徒指導を行い、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努める。生徒指導の3つの機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」を大切にしたい指導を進める。

### ◇新しい校風をつくる

コロナ禍以降、学校教育の在り方が大きく変わろうとしている。ポストコロナの新しい校風をつくりあげていく。良い意味で「寺前小6年」であることへの「プライド」を持たせ、「一生懸命がカッコイイ！」と真面目な頑張りが誉め称えられる集団づくりを、低学年から高学年へと着実に積み上げていく。

## (2) 学び合う「確かな学力」の育成

### ◇「カリキュラムマネジメント」教育課程の見える化

各教育活動は、学校教育目標をふまえた横断的な視点でしっかりとリンクさせ、児童が、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を、学校評価を生かして、教育課程に位置づけて推進していく。

全教職員が「チーム寺前」として一つの目標に向かって必至に取り組むことで、児童にも「その姿勢」は伝わり、児童も教職員もともに伸びる。

### ◇「主体的・対話的で・深い学び」の実現をめざす

これまでの取組（国語科での「言語活動の充実」、かみかわトレーニング、人権教育、ICT活用等）を生かし、より「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。特に2年間研修を深めてきた自己、他者との「対話」を大切に、発達段階に応じて、意見・考えを双方向で交流させ、練り上げる学習集団づくりをめざす。

児童の実態把握に努め、児童に寄り添い、「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を味わわせるため、専科授業や少人数学習等を積極的に活用し、確かな学力へとつなげていく。

### ◇本年度の研修テーマ（研修推進部会で検討）

（昨年度）「自ら考え、共に学びあう子の育成」

～主体的・対話的で学びを深める道徳の授業づくり～

### ◇情報活用能力の推進

児童に情報端末を適切に活用させ、あらゆる教育活動を充実させる。併せてモラルやセキュリティ等を含め、教師の活用力・指導力の向上も図る。

### ◇地域の人材（教材）活用とふるさと学習の推進

地域での体験活動、ゲストティーチャー招聘、社会科や生活科での地域教材等、系統的、継続的にカリキュラムに位置づけて活用していく。教材研究と地域（GT）との事前事後の打ち合わせや交流を大切にして、児童にとっても地域にとっても有意義な学習となるようにする。これらの教育活動を通して、ふるさと神河・地域を大切に思う心を育む。

### ◇特別支援教育の推進

一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育支援を行っていく。

## (3) 育みあう「健やかな体」の育成

### ◇体力・運動能力の向上

自ら「めあて」を持ち、体力や技能の向上に取り組む児童を育てる学習活動を推進する。

### ◇心と体の健康

命の教育、食育、保健教育を組織的、計画的、継続的に取り組み、積極的に健康な生活を実践する力を育む。

### ◇安全安心な学校運営に向けて

コロナ禍で培ってきた感染予防の徹底やアレルギー対応、防災、不審者対応等のマニュアルを見直し、より安全な学校生活の推進に努める。子どもたちには自

分ごとにとらえさせ、考えさせ、体験させることで、危機に対し適切に対応できる力を育む。

#### **(4) 保護者連携・地域連携**

##### **◇保護者（PTA）・地域との連携**

丁寧な説明や早期対応を徹底する。

「あいさつ運動」に取り組む。教師だけでなく地域の人へのあいさつへと繋げる。地域でのあいさつ活性化は、地域による見守りにつながる。

##### **◇学校運営協議会との連携**

児童との交流の場や協議会の熟議等を通して、寺前っ子の実態、真の力、思い、可能性を、より身近で感じることができる取組を進める。また、地域の力、良さ、思いが児童に届く取組を目指す。重点項目として、「ふるさと学習」「子どもと大人が語り合う人権学習」「幼小9年間を一体的に捉えた教育」を柱として推進する。

##### **◇地域教材・地域人材の活用**

##### **◇積極的な情報発信**

学校HPや学校だより、学級通信、ケーブルTV等を通して校区（地域）に発信する。継続して情報発信することで、地域や関係者の理解や協力をより深める。

##### **◇長谷小学校との交流推進**

#### **(5) 業務改善に向けて**

##### **◇記録簿への「出勤時刻・退勤時刻」記録の徹底**

##### **◇退勤時刻**

定時退勤日を毎週金曜日とする。金曜日はノー会議デーとする。

18:30までに退勤するものとする。他の曜日も、19:30までに退勤するものとする。また、特別な場合を除いて、6:40までに出勤しない。

##### **◇業務改善委員会**

勤務に関して自己の意識改革を図る。業務改善委員会を機能させ、業務の精選を図る。全職員で推進する。

##### **◇モジュール学習を取り入れた時間割編成への取組**

次年度導入に向けて、様々な工夫した取組を行い検証していく。